

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」  
平成23年度委託事業完了報告書

【推進地域】

都道府県名	京都府	番号	26
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
精華町	精華町立山田荘小学校	I・II・III型
	精華町立精華南中学校	I・II型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

(1) 研究指定校事業連絡協議会

「京の子ども、夢・未来校」及び「京の未来創造校」における研究協議や研究開発についての共通理解を図るとともに、各校における課題や研究の進め方について協議することにより、主体的かつ効果的な研究推進に役立てた。

(2) 指導方法の改善に関する研究協議会(年2回)

京都式少人数教育の趣旨を生かした児童生徒の実態に応じたきめ細かな指導を実施するための指導体制や方法、その他実施上必要な事項について協議し、学力向上に向けた効果的な指導の在り方を探り、今後の授業改善に役立てた。

(3) 山城地方教育実践交流会(※推進地区の精華町は山城地方に位置する。)

質の高い学力の育成を目指して、山城地方の小中学校における学力の充実・向上の取組を交流し、その一層の推進を図った。

【内容】公開授業、全体会、分科会

(4) 平成23・24年度京都府教育委員会指定京の未来創造校3校研究交流会

平成23・24年度「京の未来創造校」研究指定校(国語科研究)の研究1年次の進捗状況を交流し合うことを通じて、「ことばの力」育成の視点や京都府教育振興プランに示す教育課題の解決の方向性を確認するとともに、府内への効果的な普及を図るための協議を行った。

## 2. 調査研究の成果及び今後の課題

### (1) 成果

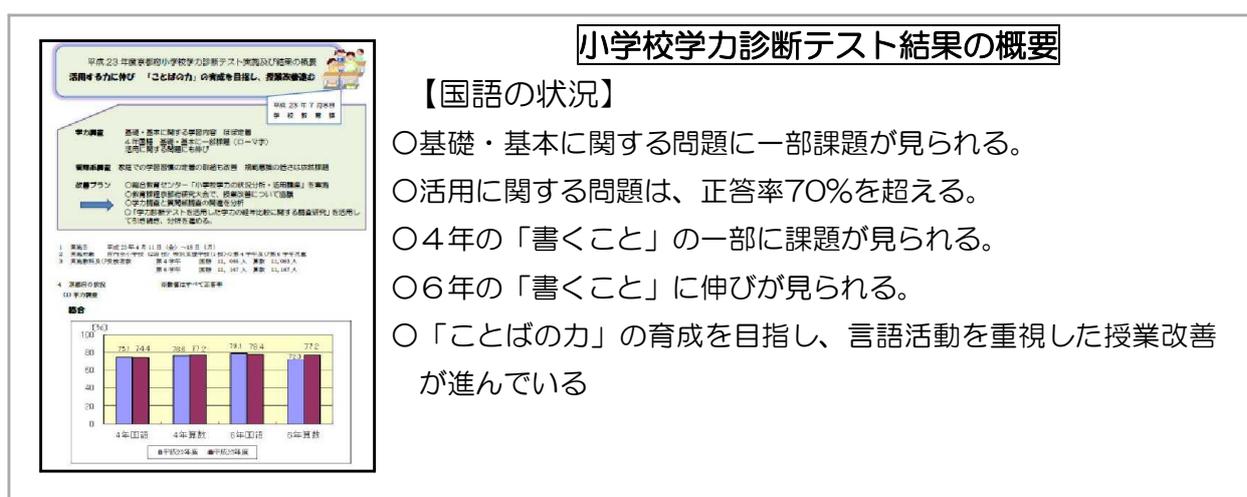
- ア 推進地区及び各推進校が、全国学力・学習状況調査や京都府学力診断テストの結果、さらには独自のアンケート結果等の分析に基づいた組織的かつ計画的な取組が実施され、府内の各地域に実践事例を提供するなど中心的な役割を果たした。
- イ 昨年度は推進地区が5地区あり、指定校間の交流が可能であったが、今年度は推進地区が1地区であったため、指定校間の交流よりも、府研究指定校等との交流が中心となったことから、府全域との交流が進み、府内の各地域に実践事例を提供することができた。

### (2) 課題

- ア 全国学力・学習状況調査及び京都府学力診断テストの結果分析を今後さらに進め、児童生徒の学力向上を目指した、より具体的な実践へとつなげていくことが重要である。
- イ 推進地区及び推進校が進めてきた実践内容を1年で終わらすことなく、来年度以降も児童生徒の実態にあわせて工夫・改善していき、自校だけでなく、府内の学校と共有していくことが求められる。

### (3) 京都府学力診断テストの結果から

京都府では、平成3年度から、小学校4年生、6年生を対象に、平成15年度から中学校2年生を対象に、学習指導要領に示す目標や内容に照らした学習の実現状況を的確に把握するとともに、その結果を分析することにより、指導上の課題を明らかにして授業改善を推進し、学力の充実・向上を図ることを目的とし、京都府学力診断テストを実施している。



## 中学校学力診断テスト結果の概要

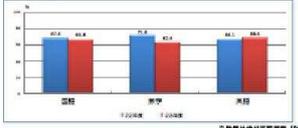
平成23年度京都府中学校学力診断テスト結果の概要について

平成23年12月15日  
学 校 教 育 課

- 1 実施日 平成23年10月29日(水)
- 2 実施対象 府立中等学校(39校) 特別支援学校(3校)の専攻科生徒
- 3 実施教科及び受験者数 国語(10,039人) 数学(10,040人) 英語(10,046人)

- 4 試験時間及び問題数
  - (1) 国語・数学に算学基礎編・・・15問
  - (2) 応用に相当する問題・・・10問
  - (3) 基礎知識編・・・24問

- 5 調査の意義
  - (1) 学力調査では、「書くこと」に関する問題や問が突出し、「書かせる」の傾向を把握し、適切な指導が求められる。
  - (2) 基礎知識編では、読書、読書の習慣化と読書に結びつけた読書活動の推進、各教科での学習習慣や生活習慣の確立の促進が、学習成果として期待されているが、基礎知識の定着には課題がある。
  - (3) 今後、「中学校学力診断テスト」を活用し、学力向上を図る。(平成24年1月24日～29日) 府立「京都府学力診断テスト」を活用した学力の向上を図るための調査結果(京都府教育センター 平成23年度学力診断テスト結果)を参照してください。



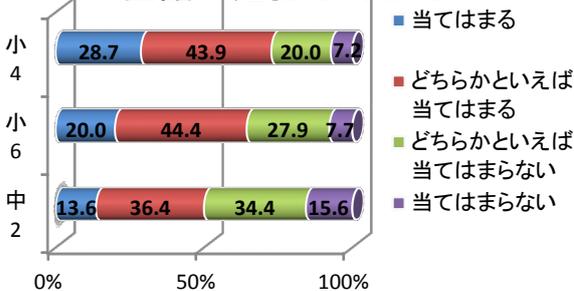
目標	達成率
国語	23.3%
数学	30.7%
英語	24.1%

### 【国語の状況】

放送で聞き取った内容をもとに、話し方の工夫について問う問題では、話し合いの話題や方向をとらえて適切に話をしたり、自分の考えとの違いを整理しながら聞いたりすることに課題がある。対話や討論など話し合いの場面を実生活の中で多く取り入れていくことが必要である。

「書くこと」においては、「ことばの力」の育成の取組から授業の中に書く場面を多く取り入れたたり、様々な種類の文章を書く機会を設定したりすることで、書くことに抵抗がなくなるなど授業改善の成果があった。

### 国語の勉強は好きだ

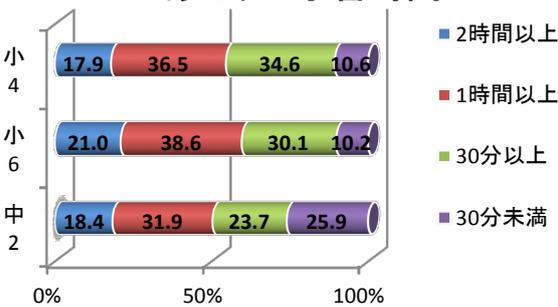


### 児童生徒質問紙調査結果より

平成23年度から、児童生徒質問紙を追加して実施している。「国語の勉強は好きだ」という質問に対しては、小学校では悉皆調査であった21年度の全国平均よりも良い結果を示しているのに対して、中学校では「好きだ」という生徒の割合が減少している。

また、1日あたりの学習時間をたずねる質問では、30分に満たない児童生徒の割合は、小学4年、6年ともに約10%程度に対して、中学2年生では、25%を超える割合となっている。小学校で身に付いた学習習慣が、中学校まで継続していない現状がある。授業改善のみならず、学習習慣や生活習慣も改善すべく、今後も引き続き改善策を研究していきたいと考えている。

### 1日あたりの学習時間



◆京都府学力診断テストの結果の概要は、京都府教育委員会のホームページでご覧いただけます。

[http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/index.php?action=pages\\_view\\_main&page\\_id=43](http://www.kyoto-be.ne.jp/gakkyou/cms/index.php?action=pages_view_main&page_id=43)

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」  
平成23年度委託事業完了報告書

【推進地域】

都道府県名	兵庫県	番号	28
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
尼崎市	尼崎市立若草中学校	Ⅱ型
丹波市	丹波市立竹田小学校	Ⅱ, Ⅲ型
丹波市	丹波市立市島中学校	Ⅱ, Ⅴ型
丹波市	丹波市立春日部小学校	Ⅱ, Ⅴ型
丹波市	丹波市立春日中学校	Ⅱ, Ⅴ型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

本県では、個に応じたきめ細かな指導の充実を図る新学習システムを推進するなど、学力の確実な定着を図る取組を進めるとともに、全国学力・学習状況調査の結果をもとに、児童生徒の学力や生活・学習習慣の状況等を把握し、指導の充実・改善を進めてきた。

平成22年度全国学力・学習状況調査の結果においては、予習・復習などの学習習慣の確立や、意見・理由の記述等の知識・技能の活用などの課題とともに、小学校から中学校に一部の課題が継続している傾向が見られた。

そこで、これらの課題や新学習指導要領の趣旨等を踏まえ、①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や学習習慣の確立を図るための「学習タイム」の推進、②思考力・判断力・表現力等の育成を図るため各教科等における言語活動を充実させる「ことばの力」育成事業など、総合的な学力向上策を進めてきた。

また、学力向上や小・中学校の円滑な接続を図る観点から平成21年度より、小学校高学年において「教科担任制」と「少人数学習集団の編成」を組み合わせた「兵庫型教科担任制」を推進してきた。本年度は、この成果を踏まえ、教育課程等において小・中学校双方向からの連携を促進するため、教育事務所に小・中連携推進専門員を配置し、中学校区ごとの連携の促進を支援してきたところである。

## 2 取組の内容

### (1) 推進地区の取組

推進地区においては、本県の重点課題である①基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や学習習慣の確立を図る「学習タイム」の推進、②思考力・判断力・判断力等の育成を図る各教科等における言語活動の充実、③家庭と連携しての学習習慣の確立等について、学校・地域の実情を踏まえながら小・中学校の連携を図り、効果的な指導方法等の研究を進めてきた。

### (2) 推進地区に対する推進地域の支援・成果の普及啓発

#### ①学力向上実践推進委員会による支援

県に設置する学力向上実践推進委員会において、新学習指導要領の趣旨を踏まえた学習指導の在り方や、過去4年間の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた継続的な課題について全県的な取組と推進地区の取組の交流を図りながら、効果的な指導方法等について分析・検証し、「授業や指導方法の工夫改善事例集」をまとめ、県下の公立小中学校に配布し、普及啓発を図った。

(平成23年度学力向上実践推進委員会 委員名簿)

		所 属	職 名	氏 名		
学 識 経 験 者		大阪大学	教 授	志水 宏吉		
		兵庫教育大学	教 授	吉川 芳則		
		兵庫教育大学大学院	教 授	佐藤 真		
		神戸親和女子大学	教 授	新保 真紀子		
		神戸大学大学院	准教授	岡部 恭幸		
		兵庫教育文化研究所	事務局長	長本 浩嗣		
学 校 関 係 者	校 長	三田市立けやき台小学校	校 長	松本 智洋	小学校長会代表	
		西宮市立甲陵中学校	校 長	松村 清	中学校長会代表	
	小学校 国 語	姫路市立勝原小学校	教 諭	長谷 浩也	国語部会	
		香美町立香住小学校	教 諭	井上 京子		
	中学校 国 語	相生市立矢野川中学校	教 諭	圓井 武		算数・数学部会
		篠山市立今田中学校	教 諭	西田 さよ子		
	小学校 算 数	伊丹市立緑丘小学校	教 諭	村上 大介	算数・数学部会	
		明石市立山手小学校	教 諭	濱崎 孝恵		
	中学校 数 学	西脇市立西脇東中学校	教 諭	鍛示 和平		算数・数学部会
丹波市立山南中学校		教 諭	岸田 孝広			

(学力向上実践推進委員会 開催日及び協議内容)

第1回：平成23年7月15日（金）14：00～16：00

- (1) 学力向上に向けた本県の取組について
- (2) 課題解決を図るための効果的な学習指導の在り方について
- (3) その他、本県の学力向上に関することについて

第2回：平成23年11月4日（金）10：00～12：00

- (1) リーフレット（授業や指導方法の工夫改善事例集）について
- (2) 平成24年度の調査の活用について
- (3) 学力向上シンポジウムについて

## ②教育事務所に設置する学力向上支援チームによる支援

教員OB等のスーパーティーチャー，小・中連携推進専門員，市町教育委員会指導主事等からなる学力向上支援チームを教育事務所に設置し，推進地区，推進校における学力の定着状況や指導方法の工夫改善等について検討するとともに，スーパーティーチャー，小・中連携推進専門員を推進校へ派遣する等，地域・学校の個別課題に即応した支援を行ってきた。

## ③学力向上シンポジウムによる普及啓発

過去4年間の全国学力・学習状況調査の分析結果や，推進地区及び本県における効果的な指導法等の取組の周知を図るため，教員，市町教育委員会関係者等を参加者とする学力向上シンポジウムを開催した。

## 2. 調査研究の成果及び今後の課題

学力向上実践推進委員会において，過去4年間の全国学力・学習状況調査の結果や推進地区・推進校における独自調査，アンケート，学校訪問による実態調査等をもとに，本県の課題の改善状況等を把握した。また，推進地区及び本県の「ことばの力」育成事業研究校の取組から授業改善や指導方法の工夫改善策について実践交流会を通じて検討してきた。

### 【成 果】

#### (1) 過去4年間の全国学力・学習状況調査の分析と課題対応

過去4年間の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ，学力向上実践推進委員会において全県的な学力の定着状況や児童生徒の学習・生活に関する意識等の状況について，総合的な分析を行い，今後の指導体制・指導方法の工夫改善等を啓発し，本県児童生徒の確かな学力の一層の定着に資するための学力向上シンポジウムを開催してきた。

特に，本年度は，過去4年間の全国学力・学習状況調査の結果を踏まえた「授業や指導方法の工夫改善事例集」を作成・配布し，授業改善や校内体制の充実に向けた総合的な学力向上策を示した。

<H23年度学力向上シンポジウムの内容>

- ・ 基調提案「本県の学力向上の取組について」
- ・ 事例発表Ⅰ「根拠を明確にして自分の考えをまとめ，推敲し交流する活動の工夫」（国語）

事例発表Ⅱ「数学的な表現を用いて説明する活動の工夫」（算数・数学）

事例発表Ⅲ「教員との交流 － わくわく、どきどきの中で思うこと －」  
(スーパーティーチャーの活動を通して)

・ パネルディスカッション

「学校全体で取り組む学力向上のための指導方法の工夫改善の視点」

(2) 「ことばの力」の育成

児童生徒の思考力・判断力・表現力等をはぐくむ観点から言語活動の充実を図るため、研究校を指定し、各教科等における「読む力」、「書く力」等の「ことばの力」を育成するための指導方法の工夫改善を図る実践研究を行った。

研究校においては、①各教科の目標や内容及び児童生徒の発達の段階や言語能力を踏まえた授業等における言語活動の在り方、②教科間の関連や学年を超えた系統的で意図的、計画的な言語活動の在り方、③学習指導や教育計画の改善につながる「思考・判断・表現」等の評価の在り方について実践研究を行った。

今後、研究校の効果的な取組をまとめた取組事例について、県下に普及啓発を行う予定である。

(3) 学習基盤の形成

児童生徒の実態に応じた学ぶ習慣の定着を図る「学習タイム」の推進等について、小・中学校 9 年間を見据えた系統的な指導体制の必要性や特色ある教育課程の編成の在り方について、経験豊富な教員 OB 等から構成しているスーパーティーチャーや小・中連携推進専門員による小中学校への訪問指導を通して、共通理解を図ることができた。

(4) 地域課題への対応

各学校の具体的な取組を支援するため、各教育事務所においてスーパーティーチャーを中心とした学力向上支援チームが市町と連携して学校を訪問し、学校のもつ課題にあった改善策を紹介したり、特徴的・効果的な取組等を普及啓発したりすることができた。

【今後の課題】

(1) 全国学力・学習状況調査の分析と課題対応

学力向上実践推進委員会を設置し、全県的な課題解決を図るための指導方法の工夫改善の在り方や効果的な取組を検討し、各学校における学力向上に係る取組を支援していく。

また、本年度示した『授業や指導方法の工夫改善事例集』の具体的な実践を県下に広げていく必要がある。

(2) 「活用する力」の向上を図る教育活動

過去4年間の全国学力・学習状況調査において、全県的な状況として資料や情報に基づいて自らの意見を記述すること、判断や根拠の理由を説明することなど知識・技能を「活用する力」の育成等に課題が見られる。

各教科等における「読む力」、「書く力」等の「ことばの力」を育成するための効果的な指導方法について、思考力・判断力・表現力等をはぐくむ言語活動の充実を図るためにも、研究校での効果的な取組事例を集積するとともに、教員研修等での実践発表を通して、さらなる普及啓発を行う。

(3) 学習基盤の形成を図る教育活動

過去4年間の全国学力・学習状況調査において、予習や復習などの学習・生活習慣の定着等などの課題が見られる。そこで、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着や学習習慣の確立に効果的な「学習タイム」の取組例の普及啓発を図る。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究」(小・中学校)  
平成23年度委託事業完了報告書  
【推進地域】

都道府県名	奈良県	番号	29
-------	-----	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
御所市	名柄小学校	I・II型
	大正小学校	II・III型
生駒市	生駒南第二小学校	I・II・V型
田原本町	北小学校	I・III型

○ 取組の概要

1 重点課題への取組状況

平成23年度は、平成20年度から実施している学力向上実践研究推進事業や学力調査活用アクションプラン推進事業を通して得られた「確かな学力育成のための取組の定着」「言語活動の充実を図った全校体制での『授業力の向上』」「家庭や地域との連携を図る取組の充実」の成果を踏まえ、重点課題として、「新学習指導要領の趣旨の実現につながる取組の充実」「推進校を中心とした研究成果の県内への普及」「推進校の連携による研究の充実」の3点を挙げ、次の取組を行った。

(1) 学力向上実践研究推進協議会の開催

学力向上実践研究推進協議会を設置し、年間2回の協議会を開催した。協議会では、推進地区及び推進校におけるそれぞれの地域の実情や課題に応じた取組を検証し、推進校における基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育み、主体的に学習に取り組む態度を養うための方策等について研究協議を行うとともに、協議会長である学識経験者による指導助言を得る機会とした。また、推進地区及び推進校における研究成果の普及の方途についても協議を行った。

(2) 平成23年度小・中学校教育課程研究集会の開催

新学習指導要領に基づく教育課程の編成、実施上の課題等及び学習評価に関する趣旨の説明及び教科等の実践報告を行い、小学校、中学校教育の改善及び充実を図るため、小学校及び中学校教育課程研究集会を実施した。

(3) 平成23年度奈良県学力向上フォーラムの開催

平成24年2月14日、約200名の教員の参加を得て学力向上フォーラムを開催した。フォーラムでは、推進校である御所市立名柄小学校が「自ら学ぶ子どもを育てる授業の創造」をテーマに、田原本町立北小学校が「書く力を高める授業の研究」をテーマに実践発表を行った。また、「これからの学力向上におけるICT活用の在り方」をテーマと

した実践報告、「学びへの意欲を高める授業を考える」をテーマにシンポジウムを行った。推進校による研究成果を周知するとともに、学力向上や学習意欲に関して参加者と議論を深めることができた。

#### (4) 推進校による研究発表会の開催

推進校の研究成果を県内へ普及するため、推進校2校が研究発表会を実施した。



平成23年度奈良県学力向上フォーラム

2校の研究発表会の概要及び主な取組は次のとおりである。

- ① 御所市立大正小学校（平成23年11月29日研究発表会 約100名参加）
  - （全学級で授業を公開，公開授業についての学年別協議，研究発表及び研究協議）
  - ・のびのびタイム（基礎学習の時間）…基礎学力の定着を図るために、「朝のびタイム」（毎朝20分間）と「ロングのびのびタイム」（年間20時間）の設定。
  - ・ペア学習・グループ学習…一人一人の学びを保障するために，ペア学習やグループ学習を全学年で展開。
  - ・学力向上のための職員研修…授業研究や職員研修を計画的に実施し，教員の指導力の向上と研究課題の共通理解を図る。
- ② 生駒市立生駒南第二小学校（平成24年1月27日研究発表会 約100名参加）
  - （第1，3，6学年で授業公開，放課後学びタイム3年の公開，研究発表及び研究協議，「算数的活動と授業改善」をテーマに講演）
  - ・授業力の向上…一人一人が学ぶ喜びを感じる授業づくりのため，授業研究を実施する。
  - ・放課後学びタイム…放課後を活用して学びたい児童が学習プリントに取り組み，学習意欲や学習習慣を培う。
  - ・算数的活動と教材開発…教材・教具を工夫開発し，算数的活動を取り入れた楽しく分かる学習を進める。

#### (5) 研究報告書ダイジェスト版（リーフレット）の作成・配付及び研究報告書のWeb公開

本事業の取組の概要とその成果等を広く県内に普及・啓発するために，奈良県学力向上フォーラムで推進校の実践発表を行うとともに研究報告書ダイジェスト版（リーフレット）を作成し，県内全ての小・中学校の教員に配付した。リーフレットには各学校のURLを掲載し，Webページで取組の詳細が閲覧できるようにしている。また，教員の指導力や家庭の教育力を高めるために参考となる資料等を支援マップとしてまとめて掲載した。



研究報告書ダイジェスト版（リーフレット）

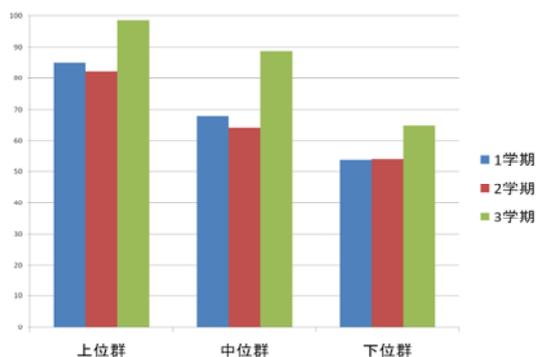
さらに，研究報告をまとめた報告書を作成し，本県教育委員会学校教育課Webページで公開し，研究成果の普及を図る予定。

## 2 成果及び今後の課題

### 【成果】

#### (1) 新学習指導要領の趣旨の実現につながる取組の充実

基礎的・基本的な知識及び技能を習得させ、課題解決に必要な思考力、判断力、表現力等を育むとともに、学習意欲を高め、主体的に学ぶ児童生徒の育成を目指し、各推進校が研究を進めた。各推進校ともに教員が積極的に授業改善を図る授業研究を行った。その結果、奈良県学力診断テスト（算数）の結果が向上したり、書く意欲の高まりが見られたりするなどの成果が得られた。



小学校第5学年算数科における  
数学的な考え方に着目したテスト結果



学校だよりによる「短文指導」

#### (2) 推進校を中心とした研究成果の県内への普及

各推進校の研究成果を研究発表会や学力向上フォーラム、研究報告書ダイジェスト版（リーフレット）及び研究報告書等により、成果を広く周知することができた。



### 【課題】

推進校の連携については、推進校による研究発表会に他の推進校の教員が参加したり、学力向上実践研究推進協議会において各推進校の情報交換を行ったりしたが、互いに連携して研究を進める点では課題が残った。また、研究成果が各学校においてさらに活用されるよう、今後も機会を捉えて授業改善等について各学校への指導・助言を行うとともに、授業研究が効果的に行われるような取組を進める必要がある。

(様式1)

「確かな学力の育成に係る実践的調査研究」における  
「新学習指導要領の趣旨を踏まえた学力向上等の方策に関する調査研究(小・中学校)」  
平成23年度委託事業完了報告書  
【推進地域】

都道府県名	和歌山県	番号	30
-------	------	----	----

推進地区名	推進校名	研究主題
九度山町	九度山小学校	I・IV型
紀の川市	安楽川小学校	I・III型
有田市	初島中学校	I型

○ 取組の概要

1. 重点課題への取組状況

平成15年度から平成20年度まで実施した和歌山県学力診断テスト及び全国学力・学習状況調査の結果から、読解力に関する問題や記述式、論述式といった知識・技能を活用する問題に課題が見られ、国語については、全国平均正答率を下回る状況が続いている。その課題解決に向けて、「学力向上に取り組む学校の教職員の当事者意識を高めること」が必要であると考え、本事業を以下のとおり実施した。

(1) 校内授業研究の充実と学校訪問指導

推進校において、教職員が目指す授業を共通理解し、学校全体の授業改善を推進するため、参観者の視点を明確にした事前・事後の研究協議やワークショップ型の研究協議を実施するなど、校内授業研究の質、量の充実を図った。また、市町村教育委員会、教育支援事務所による学校訪問指導を実施し、研究推進への指導・助言を行った。

(2) 平成23年度全国学力・学習状況調査の県独自調査(H23.927~10.7)の実施

教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立し、各学校の教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てるため、文部科学省が作成した問題冊子等を活用して、県独自調査を期間を限定して実施し、教育センター学びの丘が作成した活用ツールを使って集計・分析を行った。

(3) 学力向上推進に係る研修会の開催(H23.10.27)

各校の学力向上への当事者意識を高めることを目的に、「校長のリーダーシップと学校経営」に焦点化した研修会を実施した。学校経営という視点からの九度山小学校、初島中学校の学校長による実践発表、講師を招聘しての講義、学力向上のための学校経営

の方策等についての協議（ワークショップ）を行い，県内から約 180 名の管理職等が参加した。また，研修会の成果報告書として，「和歌山の教育 基礎・基本」（リーフレット）を作成し，各校に配付した。

#### （４）推進地区等における推進校の成果の普及

安楽川小学校の取組については那賀地方教頭会等で，初島中学校については授業研修報告書の有田市内小中学校への配付や有田市内の研究主任者会などで，九度山小学校については，和歌山大学と県教育委員会のジョイントカレッジ事業「学校マネジメント実践研究」の実践事例校として授業等の公開を行うなど，機会を捉えて推進校の取組の成果の普及を図った。

#### （５）第２回和歌山教育実践研究大会での実践発表（H24.1.28・29 開催）

本県の幼稚園，小・中・高等学校及び特別支援学校等で取り組んだ教育実践を交流し，今後の教職員の教育実践の向上に向けて昨年度から実施している標記大会において，九度山小学校，安楽川小学校がポスターセッションで，初島中学校が社会科の分科会で，それぞれ実践発表を行い，成果の普及を図った。

#### （６）研究指定校による取組の普及

推進校 3 校は，以下の日程及びテーマで自主研究発表会等を開催し，研究の検証と成果の普及を図った。

##### ○九度山小学校(H24.2.7)

「発表力の前提となる考える活動・書く活動の工夫  
—算数科における問題解決型授業展開を通して—」

##### ○初島中学校(H24.2.7)

「生徒が学び合う授業をとおした評価の研究」  
「校内研修（OJT）の充実」

##### ○安楽川小学校(H24.2.21)

「豊かにことばを求める子どもの育成～聴いて，考えて，つなげる授業をめざして～」

## 2. 調査研究の成果及び今後の課題

### （１）全国学力・学習状況調査の和歌山県における実施結果（県独自調査）

#### 【全国学力調査】

	国語A	国語B	算数・数学A	算数・数学B
小学校平均正答率（％）	76.9	40.2	81.0	45.2
中学校平均正答率（％）	78.1	65.1	59.5	52.9

小学校A問題，中学校国語については概ね満足できる状況にある。しかし，小学校では，「自分の考えを書いたり，深めたりすること」や「理由や意見をまとめること」，中学校では，「提示された形式に合わせて適切に書いたり，自分の考えを書いたりすること」や「自分の考えを論理的に書くこと」などの正答率が低く，依然として記述式，論述式に課題が見られる。また，数学については，A問題・B問題ともに平均正答数の分布にばらつきが見られた。

今後、全国学力・学習状況調査問題を問題設定の意図や仕組みから分析し、授業のねらいや評価すべき児童生徒の具体的な姿に反映させたり、授業の中で活用したりして、県内の全ての学校の授業改善に生かしていく必要があると考える。また、これらの分析結果を踏まえ、学力の定着しにくい児童生徒への組織的・継続的な補充学習の充実をさらに図り、全ての児童生徒の確かな学力の育成に努める必要がある。

### 【児童生徒質問紙調査・学校質問紙調査】

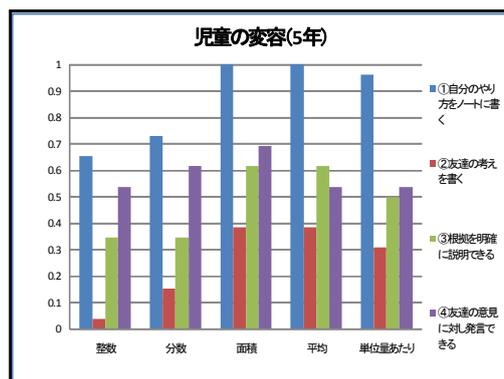
「目的に応じて資料を読み、自分の考えを話したり、書いたりすること」について、肯定的に回答している生徒の割合は増加傾向にある。また、解答を言葉や式を使って説明する問題に「最後まで解答を書こうとした」と回答している生徒は、平成 22 年度調査に比べ 12.5 ポイント増加している。また、「模擬授業や事例研究等、実践的な研修を行っていますか」の問いについて肯定的に回答している割合は、小学校では増加傾向にあり、中学校では平成 22 年度調査に比べて 7.3 ポイント増加している。

実施時期が例年とは異なり、同一の環境で行われたものではないが、質問紙調査の結果から、中学校の授業改善への取組が進みつつあると考えられる。今後は、さらに学校全体で授業改善を進めるための校内研修の在り方を工夫し、学校がチームと取り組んでいく体制づくりが重要である。

### (2) 検証改善サイクルの充実

全国学力・学習状況調査の結果、児童変容調査（教師評価）や児童の意識調査、外部アンケートの活用や定期テストの目標値の設定など、推進校は取組の検証を意識しながら研究推進に取り組んだ。数値データなど実践の成果を目に見える形で示し共有することで、教職員の取組への意欲向上と組織としての研究の方向性が明確になってきた。

各学校においては、様々な授業改善の取組が行われているが、取組の検証という点において課題があるといえる。今後は、各学校が取組の成果をどう検証し、評価していくかという視点を意識し、効果的な検証改善システムを構築する必要がある。



単元終了時に「目指す子ども像」に照らした4つの観点から子どもの育ちを評価した。(九度山小学校より)

### (3) 校内研修の充実と学校組織の活性化

授業改善に向けて研究授業が実施され、一定の成果をあげている一方、研究授業の成果が学校全体のものになりにくかったり、研究の成果が日常の授業に生かされにくかったりする面も見られる。今後は、日々の授業に生かすための校内研修の充実を図るとともに、目標を共有し、同じ方向性をもつ教職員集団といった学校組織の活性化を図る必要がある。

本事業の成果の一つとして作成した「和歌山の教育 基礎・基本」(リーフレット)を活用しながら、各学校において授業づくりの視点等の共通理解を図ることや、学校の組織としての取組を意識するよう働きかけていく。